

IMPACT REPORT 2025

宙 "SORA" から、人の生き方に変革を。
Revolutionizing human lifestyles from the sky.



あなたは、蚊が媒介する感染症によって、毎年約2億人以上が感染し、約60万人以上が命を落としているという現実を知っていますか？
マラリア、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱 — これらは、いまま世界各地で人々の健康と未来を静かに奪い続けています。
医療アクセスが困難な地域では、蚊媒介感染症が子どもの成長、国の労働力、経済発展までも左右する深刻な社会課題となっています。
しかしそれは、日本から遠く離れた「別世界」の出来事ではありません。

日本もかつてマラリアの流行を経験しました。
さらに気候変動や人の移動の変化により、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱といった蚊媒介感染症は、
日本を含む世界で再び現実的なリスクとなりつつあります。
これは、特定の地域だけでなく、私たち自身の課題でもあります。
私たちは創業当初から、「見えない課題そのものを見えるようにする」ことに強い意図を持ち、
ドローン×AIを活用したヘルスケア事業に向き合ってきました。

蚊媒介感染症の媒介源となる水たまりや繁殖環境を、誰よりも早く、正確に、効率的に特定し、対策を行う。
そのシンプルで本質的なアプローチが、私たちの出発点です。
今回、私たちのインパクトと事業の変革仮説を整理した「インパクトレポート2025（β版）」を公開しました。
このレポートを、より実効的なモデルへ進化させるための対話の場にしていきたいと考えています。

私たちは、社会課題の“根本”にイノベーションで挑み、社会に価値を届けながら、持続的な成長を目指します。
地域の人々、現場の仲間、行政、研究者、グローバルパートナーとともに、
“宙（SORA）から、人の生き方を変える”未来を、本気でつくりにいきます。

代表取締役 創業者 & CEO
金子 洋介

Contents

目次

▼ Who we are		▼ Voices from the Field	
会社概要	3	現場から見える変化（散布員）	14
Mission, Vision, Value	4	現場から見える変化（ガーナ共和国保健局）	15
組織変遷	5	現場から見える変化（コミュニティ）	16
事業概要	6	▼ Voices from the Stakeholders	
▼ Challenges & Solutions		グローバルヘルスを応援するリーダーからの声	17
マラリアがもたらす課題	7	▼ Next Steps	
ドローンxAIを活用したアプローチ	8	持続的なインパクトの創出に向けて	18
▼ Logic Model		非連続的成長を推進するメンバーの思い	19
インパクト創出構造	9	経営陣が描く、未来像	20
▼ Key Figures			
数字から見るインパクト	11		
社会・経済的波及効果への期待から見るインパクト	12		
グローバルパートナーシップから見るインパクト	13		

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Who we are

ドローン技術とAIを用いてマラリア撲滅を目指す日本発のスタートアップ

社名 SORA Technology株式会社

設立 2020年6月19日

代表者 代表取締役社長 金子 洋介
取締役 梅田 昌季、大前 創希

所在地 名古屋オフィス
〒451-0042 愛知県名古屋市西区那古野2-14-1
なごのキャンパス

東京オフィス
〒150-0011 東京都渋谷区東一丁目29番3号
渋谷ブリッツB棟 1c,2b区画



関係パートナー



Who we are

Mission, Vision, Value

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Mission

宙”SORA”から、人の生き方に変革を。

Revolutionizing human lifestyles from the sky.

Vision

宙”SORA”を活用した、災害・疫病に負けない持続可能な社会の実現。

Realizing a sustainable society resilient to disasters and epidemics through the utilization of the sky.

Value

地球視野

グローバル視座で
地球人の一人として
世界に貢献するリアリティと
スピード現場を大切に
現実を直視しながら
スピード感のある
行動を

機会公平

多様なステータス・
価値観に寄り添い
尊重する

夢とアイデア

夢を大切に
独自のアイデアで
唯一無二の
価値を示す

チャレンジ

心を震わせる
発見を大切に
チャレンジする

SDGs



1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Who we are

SORA Technologyの変遷

会社設立

グローバルヘルス領域の課題
解決を目指すイニシアティブ
「WELCO Lab for Global
Health」参画

「グローバルヘルスを応援する
ビジネスリーダー有志一同の会
」に設立メンバーとして参画

2020

アフリカ・シエラレオネで
科学技術イノベーション局と、
ドローンによる医薬品配送事業
MoU締結

2021

経産省事業にてシエラレオネでの
AI・ドローンによるマラリア対策、
及びブータンでの医療物資配送
プロジェクトをそれぞれ開始

TICAD8 サイドイベントにて
Bill Gates氏よりマラリア対策に
高い評価を受ける

2022

JICA民間連携事業にてガーナでの
マラリア対策事業を開始

2023

シードラウンドとして約1.3億円の
エクイティ資金調達

J-Startup認定

2024

経産省事業の一環で、カンボジア
パスツール研究所（IPC）と、
デング熱等へのAI導入プロジェク
トを開始

Gavi INFUSE プログラムにて
東アジア初のトップ10イノベーシ
ョン選出

2025

UNITAID支援の元、モザンビークに
てWHOとのマラリア対策事業を
開始

プレシリーズAラウンドとして
約4億円のエクイティ資金調達

Forbes JAPAN 「NEXT IMPACT
STARTUPS 30」に選出

週刊東洋経済「すごいベンチャー
100（2025年最新版）」に選出

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Who we are

SORA Technologyの事業概要

私たちは、マラリア対策に極めて有効なLarval Source Management (LSM) を、圧倒的安価で実施可能にする、ドローン × AI によるサービスを提供しています。

LSMは、ボウフラ(蚊の幼虫)の繁殖域となり得る水域に対して殺虫剤散布等を行い、ボウフラの個体数を減らす方法で、WHOにより、Long-Lasting Insecticide Nets (LLIN：蚊帳), Indoor Residual Spraying (IRS：室内スプレー)と共に推奨されている方法です。

蚊帳(LLIN)



室内スプレー(IRS)



ボウフラ対策(LSM)



Challenges & Solutions

マラリアがもたらす課題

アフリカやアジアの国々では、雨季のたびに道ばたや家の裏、小さな農業用水路などに無数の水たまりが生まれ、そこがマラリアを媒介する蚊のボウフラの「工場」になっています。

その結果、世界では毎年約2億人超がマラリアに感染し、約60万人以上が命を落としており、その約95%がアフリカで起きています。特に5歳未満の子どもが大きな影響を受けているという報告もあります。

マラリアは予防・治療が可能な疾患ですが、流行が止まらない背景には、「発生源が見えない」「対策を打つべき場所が分からない」ことがあります。

⚠ 社会的影響・損失:

2億+ 60万 95%

年間マラリア罹患患者数

年間死亡者数

アフリカ地域の死亡割合

参照：WHO World malaria report 2024

人力による水たまり発生箇所の検討



https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/85379/9789241505604_eng.pdf

ボウフラの発生有無の検証



<https://www.montcopa.org/563/Mosquito-Surveillance>

<従来手法による課題感>

発生源の「見えなさ」:

ボウフラは小さな水たまりや季節ごとに変化する湿地に発生するため、どこで増えているのかを人の目だけで把握することが難しい。

限られた人手と予算:

現場の保健スタッフは広大なエリアを徒歩で巡回しなければならず、すべてのリスク地点を回り回ることができない。

社会・経済への連鎖的な損失:

罹患による医療費負担や労働損失、子どもの欠席による学習機会の喪失が、家庭や地域の貧困の連鎖につながっている。

Challenges & Solutions

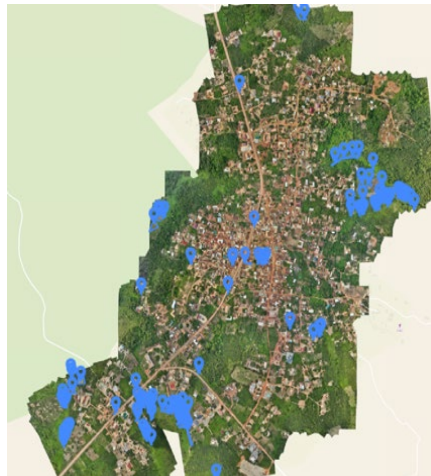
ドローンxAIを活用したアプローチ

これまで多くの地域では、保健スタッフが集落を徒歩で巡回し、水たまりを目視で探して薬剤を散布する方法が中心でした。人の足と勘に頼っていた発生源調査を、「空からの俯瞰」と「データに基づく意思決定」に置き換えることで、マラリア対策の効率と持続可能性を高めていくことが狙いです。

ドローンの飛行



AIによる“ボウフラがいる” 水たまりだけの検出



アプリによる通知 ・ 散布の実施



<ドローンxAI手法による成果>

広域を短時間で「見える化」：

広い地域を一度にスキャンし、ボウフラが発生しやすい水域を自動的に抽出・地図化することで、「どこにリスクが集中しているか」を俯瞰できる。

優先度の高い場所に資源を集中：

リスクマップに基づいて散布地点を絞り込むことで、限られた人員と薬剤を、本当に必要な場所に集中的に投入できる。

デジタルデータによる継続的な改善：

空からの観測データと現場の対応状況を蓄積することで、「どの対策がどれだけ効いたのか」を定量的に把握し、翌年以降の計画に反映できる。

1
Who we are

2
Challenges &
Solutions

3
Logic Model

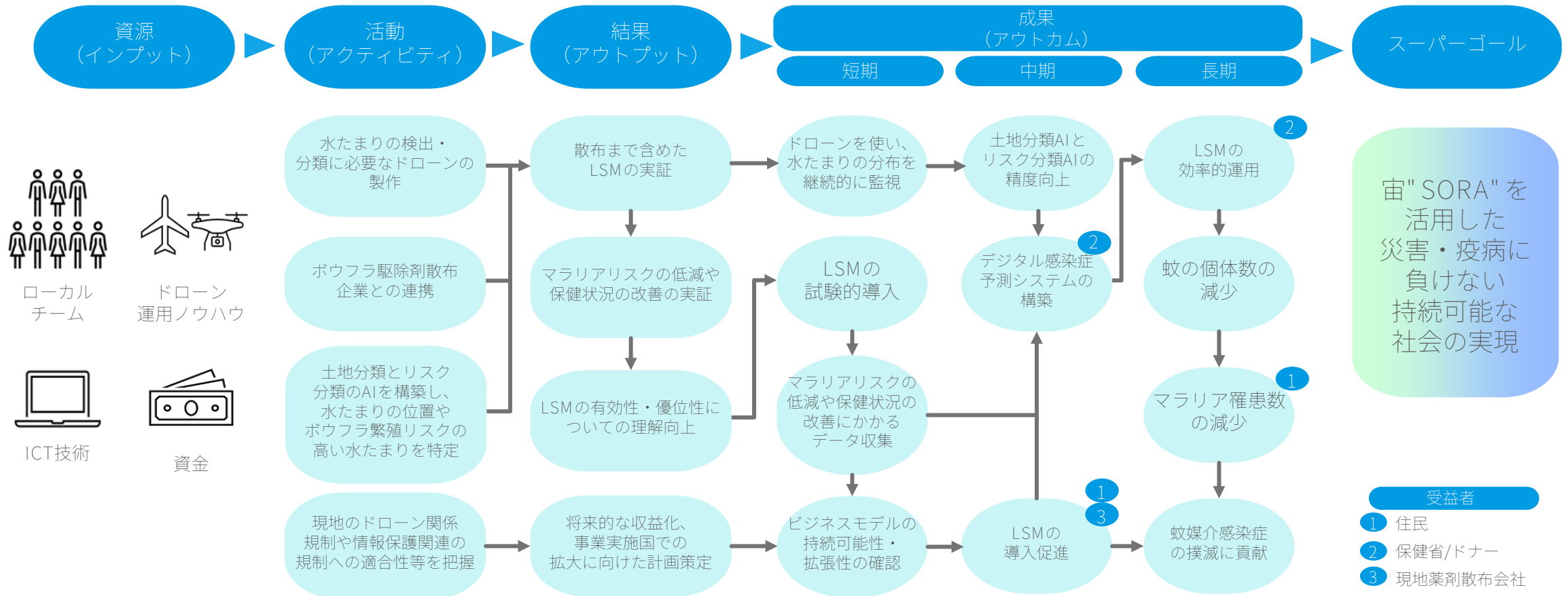
4
Key Figures

5
Voices

6
Next Steps

Logic Model

インパクト創出構造



1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Logic Model

インパクト創出構造

1 . . . 住民

マラリア感染リスクが高いアフリカ・アジア各国の在住者。
現在、毎年2億人がマラリアに感染し60万人の命を奪っており、
その95%はアフリカで発生している。SORA Technologyの技術が
普及することで、衛生環境の改善速度が向上し、人々の命が
救われる。

2 . . . 保健省/ドナー

公衆衛生分野を管轄する行政機関。
SORA Technologyの技術の導入によって、殺虫剤の使用量や実施
コストを大幅に削減出来るため、マラリア問題解決の費用効率化
に繋がる。

3 . . . 現地薬剤散布会社

ボウフラ(蚊の幼虫)を駆除する薬剤を投下する事業者。
SORA TechnologyのLSM*の導入によって人件費削減と環境配慮
を実現しながら、駆除できる。

事業概要、受益者インタビュー等のロジックモデルの背景・補足については
下記の動画をご参照ください。



Youtubeリンク：<https://www.youtube.com/watch?v=ID0jPNDaRFo>

※LSM:Larval Source Managementの略称。ボウフラ発生源管理を意味する。

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps

Key Figures

数字から見るインパクト

ガーナ実証プロジェクトで、水域検出・薬剤使用・作業負担などの向上を通じて費用対効果の改善を確認。

実証プロジェクトにおける成果：

Q 検出精度向上

水域検出個数

2.8～5.7倍 +183～
+468%

*従来値を1.0（基準）とした相対値

水域検出面積

従来比最大62倍

・ドローンxAIを活用することで、今まで確認できなかった水たまりを検出できるようになった。

A 薬剤効率化

高リスク判定割合（Asuom地区）

59% 170/290カ所

→選別導入を可能に

薬剤使用量

50～70%削減

→従来の約半分の使用量に

薬剤散布対象数（Asuom地区）

53%削減 136カ所のみ

→全部散布から選択散布へ

コスト削減

散布工数（人日）

75%削減 50%削減

*大規模地区

*小規模地区

・効率的な検出および高リスク判定を行うことで、薬剤の選択散布を実現。
・作業工数の大幅削減により、人的コスト削減が可能に。

費用対効果

27%削減

→将来最大50%の削減見込み

感染傾向

減少傾向の声

→現地医療従事者の実感と一致

・作業工数の削減により費用対効果の大幅削減を実現。
・医療従事者より感染が例年より減少傾向にあるといった声もあがった。

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps

Key Figures

社会・経済的波及効果への期待から見るインパクト

AI・ドローンによるLSM実施における、将来的な社会・経済的波及効果への期待が高まる。

 経済的インパクト

労働・薬剤コストを大幅に削減し、地域経済の余力を生む。

作業工数・薬剤使用の削減により、行政資源の再配分を可能にし、
将来は農業・防災など周辺領域における生産性向上に寄与。

 医療的インパクト

感染リスクの“見える化”で、発生前から守れる医療体制へ。

リスク特定などの検出精度向上により感染リスクの把握が可能に。
データ活用により行政判断が迅速化し、将来的にEWS*やDALY*改善に
つながる基盤を形成。

 社会的インパクト

現場の負担を軽くし、地域に“安心して生活できる環境”をつくる。

作業工数の削減により巡回負担や危険性などを低減。デジタル技能習得
などを通じ、地域の生活・働き方を変える土台に。

 環境的インパクト

必要な場所にだけ散布し、環境への化学的負荷を最小化。

薬剤使用量の削減で環境負荷を抑制。過剰散布の歯止めとなり、
耐性蚊抑制や湿地保全への展開も期待。

*EWS (Early Warning System) : 早期警戒システム。感染リスクの兆候を事前に把握して、早めの対応を可能にする仕組み。

*DALY (Disability-Adjusted Life Years) : 障害調整生命年。「健康な生活年数」を示す指標。

Key Figures

グローバルパートナーシップから見るインパクト

事業展開国であるアフリカを中心に、現地政府機関やドナー機関である国際機関、大学・研究機関、イニシアティブ等と連携・協業を拡大中。



<事業実施国>

<u>Western Africa</u>	Malaria cases estimated (2024)	GDP per capita (2024, USD)
Nigeria	68.5M	807
Cote d'Ivoire	8.6M	2,710
Cameroon	7.6M	1,762
Ghana	6.7M	2,406
Benin	5.1M	1,485
Sierra Leone	2.4M	873
Senegal	0.7M	1,744
<u>Middle Africa</u>		
DRC*	35.2M	647
Angola	9.8M	2,122

<事業実施国>

<u>Eastern Africa</u>	Malaria cases estimated (2024)	GDP per capita (2024, USD)
Uganda	13.2M	1,073
Ethiopia	12.4M	994
Mozambique	10.2M	647
Tanzania	9.4M	1,186
Malawi	6.4M	508
Zambia	5.4M	1,235
Kenya	4.2M	2,206
Djibouti	40K	3,496



参照：WHO World malaria report 2025, World Bank
*DRC: Democratic Republic of the Congo

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps

Voices from the Field

現場から見える変化（散布員）



散布員

"見つかる水域が増えたのに、薬剤はむしろ減った"

ー ガーナ・介入地区 スプレーチーム

効率性の価値が認識されたことに加え、制度的慣行・環境配慮を再考する契機に



散布員

"作業時間・距離が減り、作業者の負担が大きく減った"

ー ガーナ・介入地区 スプレーチーム

移動距離・散布工数の削減により、体力的・時間的負荷が軽減



散布員

"仕事を奪われるのでは"と心配したが、役割の再配置などによって対処された"

ー ガーナ・介入地区 スプレーチーム

確認関係者との早期のコミュニケーションにより、技術革新の倫理的配慮を実施

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Voices from the Field

現場から見える変化（ガーナ共和国保健局）



District Chief Executive of North Dayi district.
Honourable Edmund Kudjoh Attah



行政

“私たちはたくさんのことをやってきたが、これまで期待通りの結果を得られなかった。この取り組みは時間とコストを削減でき、環境に優しいという点で素晴らしい”

— 保健局チーフエグゼクティブ

従来にない成果と環境面での価値が認知され始めている



行政

“SORA Technologyがゲームチェンジャーになると信じている。国家マラリア撲滅プログラムに強いインパクトを与えると確信”

— 保健局担当者

国家マラリア対策における変革的インパクトへの期待が高まっている

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps*Voices from the Field*

現場から見える変化（コミュニティ）



Medical doctor, clinical coordinator,
Catholic hospital Anfoega

Dr. Osmanu Issahaku



医療

"今年の乾季は、いつもより早くマラリア症例が減った"

ー ガーナ・介入地区 医療従事者

季節的減少との重なりはあるものの、OPD（外来）で減少傾向が確認されており、現場の実感と一致



コミュニティ

"ドローンのデータがあると住民説明が的確になり、理解と協力が得られやすい"

ー 地域担当者

AIによるリスク分類が公衆衛生教育の焦点を明確化し、コミュニティ・エンゲージメントの質を向上

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps

Voices from the Stakeholders

グローバルヘルスを応援するリーダーからの声

Global health leaders



”
世界で最も多くの命を奪うのは蚊。
それに挑むSORA。

世界で一年間に最も多くの人間を殺す生き物とは人間でなく、実は「蚊」です。尊い命を脅かす感染症の媒介である「蚊」という課題解決にテクノロジーとイノベーションを駆使しながら日本から世界へ飛び立つSORAのますますの発展に期待しています。

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
渋澤 健氏



”
イノベーションがマラリア根絶に
近づく力になり得る。

この取り組みは、イノベーションがマラリア根絶に近づく力になり得ることを示しています。私たちは、最先端技術を活用して命を守るモザンビーク政府を支援できることを誇りに思います。

WHO Representative in Mozambique
Dr Severin von Xylander



”
人命を救うだけでなく、社会基盤を
強化し持続的成長に貢献する革新的試み。

アフリカの長年の課題にテクノロジーとイノベーションで挑むSORA社の取り組みは、人命を救うだけでなく、社会基盤を強化し持続的成長に貢献する革新的試みです。そのインパクトに大きな期待を寄せています。

African Development Bank Group Executive Director
中井 智己氏

Impact investment leaders



”
先進技術でグローバルヘルスへの
大きなインパクトを期待。

マラリアをはじめとする蚊媒介感染症という深刻な社会課題に挑むSORA Technologyを心から応援します。同社のドローン×AIという先進技術を用いたアプローチで、グローバルヘルスに大きなインパクトを与えることを期待しています。

ニッセイ・キャピタル株式会社 代表取締役社長
秋山 直紀氏



”
「日本発・世界の模範」となる
会社。

起業家の「創業意図の深さ」こそが、インパクト志向な組織と事業をつくる源泉です。また、「日本発・世界の模範」となる会社の1社だと思うので、今後創出するインパクトの旅路を心から楽しみにしています！

株式会社UNERI 代表取締役
河合 将樹氏

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Next Steps

持続的なインパクトの創出に向けて

 統合インパクト評価

費用対効果、OPD（外来）データ、
収量改善、削減薬剂量、雇用創出など
総合的に価値を可視化。
データドリブンの包括的なインパクト測定
を実現。

 AIモデルのマルチユース化

水域・植生・土壌などの情報を学習し、
複数領域で使える汎用AIへ高度化。
様々なセクターでの意思決定を支援。

 国際パートナーとの連携強化

WHO、Global Fund、UNICEF、JICA
などとインパクト連携を深化。
グローバルなパートナーシップを通じ
政策対話・実証拡大・資金動員を加速。

 地域拡大・横展開

マラリア対策に加え、環境・農業・鉱山・
防災・水衛生等、領域的かつ地域的（アジ
ア・南米等）なスケールアップを目指す。
技術面ではドローンと衛星の技術統合を
通じた現場実装の最適化を促進。

 組織・ファイナンス基盤強化

IPOを視野に入れた資本政策とガバナンス
強化を推進。
持続可能なビジネスモデルの確立と
社会的インパクトの最大化を両立。

1
Who we are2
Challenges &
Solutions3
Logic Model4
Key Figures5
Voices6
Next Steps

Next Steps

非連続的成長を推進するメンバーの思い

代表取締役 創業者 & CEO
金子 洋介

創業期から社会価値と事業成長の両立を自在にこころで走ってきました。「テクノロジーは人の役に立ってこそ意味がある」そんな想いの元、宙のテクノロジーを活用し、ヘルス・気候変動領域でインパクト投資のROIを高める（同じ投資額で何倍もの人を救う）ことを実現していきました。今後もブレずにチーム一丸となってやっていきます！！

取締役 Vice CEO
梅田 昌季

「技術は、それを届ける人々のリレーがあってこそ初めて命を救う。」この原体験が、SORAでの私のモットーです。ドローンやAIといった先端技術をローカル人材とともに実装し、社会の周縁にいる人々にまで価値が行き届く健康インフラを構築すること。それが、私が目指す未来です。

Chief Operating Officer
石川 真理奈

アフリカ滞在時に「誰も罹患しない状態をつくってこそ不幸の連鎖は断ち切れる」と痛感し、途上国課題を根本から解決したい思いで入社しました。先進的な感染症対策やデータ活用ソリューションの可能性を目の当たりにする今、これからも人々の暮らしを良くする解決策を生み出し続けたいと考えています。

Chief Mosquito Officer
山口 真広

住友化学でマラリア対策用蚊帳の販売をしていた7年で、マラリアの年間死亡者数は100万人から50万人に減りました。ビジネスの力でアフリカの人々の命が救える、やればできると思いました。それから約8年。マラリアによる死亡者数は減っていない。人とテクノロジーが融合した、これからの国際協力をSORAと共に。

Head of Africa Business
Mary Yeboah
Asantewaa

アフリカの命を救う保健システムの必要性を痛感しSORAに参加しました。母国ガーナでの導入に深い誇りを感じています。今後もヘルスケアから農業・鉱業まで領域拡大に貢献し、アフリカの未来を変える実践的ソリューションを形づくりたいと考えています。

Operations Lead,
Sierra Leone
Benjamin Bai
Koroma

途上国の課題解決にドローンを生かす使命に共感しSORAに参加しました。インターン経験を基にシエラレオネで持続的運用を率います。今後は技術力向上とデータ活用で連携を広げ、地域インパクトを深めたいと考えています。

European Business
Consultant
Ralph Ankri

創業期からSORAに寄り添い、社会価値と事業成長を両立する企業へ育てたい一心で支えてきました。今後は、ヘルスケア領域に加えて農業・鉱業などのB2B分野で社会的インパクトを高め、SORAが世界的に信頼される存在となることを願っています。

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Next Steps

経営陣が描く、未来像 ～事業編～



金子（CEO）：

僕らがやっているのは、ドローンや衛星とAIで「空から環境情報を取得し、人の意思決定を変えていく」仕事だと思っています。マラリア対策から始まった事業ですが、農業、鉱山のESG対策など、社会に役立つユースケースはまだまだ広がる。その汎用性とニーズの大きさを、この一年で改めて実感しました。マラリア事業をコアにしながら、アフリカ地域以外にも東南アジアや南米など他地域の感染症対策や水・農業・鉱山の課題にも取り組んでいけたらと思っています。



石川（COO）：

私がSORAに惹かれたのは、「人の命を直接救う」事業であることでした。妊婦への感染リスクや子どもの死亡率が高い感染症に向き合うことは、とてもストレートなインパクトがあると思っています。マラリアだけでなくデング熱などの対策を通じて東南アジアなど他地域へ広げることの意義も大きいと考えています。



梅田（Vice CEO）：

僕たちのミッションの「空から人の生き方に変革を」という言葉には、命を守ることと、その先の「生き方の選択肢」を広げること、両方の意味を含めています。貧困や疾病から抜け出したい人もいれば、自分らしいキャリアを追求したい人もいます。そのどちらにも貢献できる事業でありたい。そのために、感染症対策を軸にしながら、農業や資源開発など、現地の暮らしと産業に直結する領域に挑戦していきたいと思っています。



金子（CEO）：

マラリア対策で培った「空からのデータ×AI×現場オペレーション」の組み合わせは、アフリカにとどまらず、アジアや南米、そしていずれは日本にも応用できるはずです。地球視野で見ると、この挑戦がどこの国でも通用する「次世代の公共インフラ」になりうる。そんな絵を本気で描いているので、2026年は地域的にも領域的にもより一層事業を飛躍させたいと考えています。

1

Who we are

2

Challenges &
Solutions

3

Logic Model

4

Key Figures

5

Voices

6

Next Steps

Next Steps

経営陣が描く、未来像 ～組織編～



梅田 (Vice CEO) :

SORAのインパクトは「何人をドローンで置き換えたか」ではなく、「どんな雇用と機会を新しく生み出したか」だと思っています。ガーナやシエラレオネでは、現地の大学と連携しながら、データコレクターやオペレーターとして多くの若者に仕事の機会を提供してきました。危険な違法採掘に流れてしまう代わりに、AIやデジタルのスキルを活かせる仕事にアクセスできる。そこにも大きな意味があると思っています。



石川 (COO) :

社員だけでなく、データコレクションに関わるパートナーまで含めると、すでに100人規模の仕事を生み出している感覚があります。今後は、現地メンバーのライフストーリーや声も丁寧に拾いながら「SORAの技術や事業に関わることで、自分の生き方がどう変わったのか」を見える化していきたいです。



金子 (CEO) :

僕たちは、「地球視野」「リアリティとスピード」「機会公平」「夢とアイデア」「チャレンジ」といった5つのバリューを掲げていますが、まだ社内で十分に浸透しているとは言えません。今回のインパクトレポートは、そのバリューを会社全体でアップデートしていく“発射台”にしたい。まずはベータ版として展開し、メンバーや現地チーム、ステークホルダーからのフィードバックをどんどん取り込んでいくつもりです。



梅田 (Vice CEO) :

インパクトを実践していくには「現地」に向き合う誠実さと自分たちの納得感が大事だと思っています。だからこそ、現地メンバーも含めた「内側からの声」も丁寧に拾いながら、SORAらしいインパクトのかたちをつくっていききたいですね。



石川 (COO) :

アフリカ発の挑戦を軸に、アジアや南米にも仲間を広げていく。そのプロセス自体が、SORAのインパクトストーリーだと思います。空からデータを届けるだけでなく、「そこで働く人たちの心を震わせる発見」を一緒に増やしていきたいです。



SORA Technology株式会社
<https://sora-technology.com/>



本報告書の取り扱いについて:
本報告書に含まれる将来の見通しに関する記述は、当社が本報告書発行までに入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、マクロ経済動向や当社の組織体制などにより変動する可能性があります。当社は、本報告書の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明および保証するものではありません。なお、記載されている会社名およびサービス名(ロゴマークを含む)は、各社の商標または登録商標です。
また、本報告書の冒頭に掲載している写真はAIにより生成された画像です。